

牛岳温泉スキー場及び周辺施設再整備基本構想
-抜粋版-

富 山 市

< 目 次 >

第1章 施設再整備の背景 -----	1
（1）本施設群の現況 -----	1
（2）本市域を取り巻くレクリエーション・観光の動向 -----	7
（3）再整備に係る類似施設の動向 -----	15
第2章 施設運営に係る地域・民間事業者の意向 -----	21
（1）牛岳地域における事業者等の意向 -----	21
（2）地域・民間事業者の意向を踏まえた再整備の方向 -----	23
第3章 牛岳温泉スキー場及び周辺施設再整備コンセプトの検討・設定 -----	24
（1）再整備対象施設の範囲 -----	24
（2）再整備の基本理念 -----	24
（3）効果的な体制の検討 -----	26
（4）再整備の利活用案 -----	27
（5）再整備のイメージ図（案1） -----	29
第4章 施設再整備に係る事業計画 -----	33
（1）施設の維持・解体・更新費用の概算 -----	33
（2）ソフト事業の検討 -----	34
（3）施設再整備の実現に向けたスケジュール -----	34

第1章 施設再整備の背景

(1) 本施設群の現況

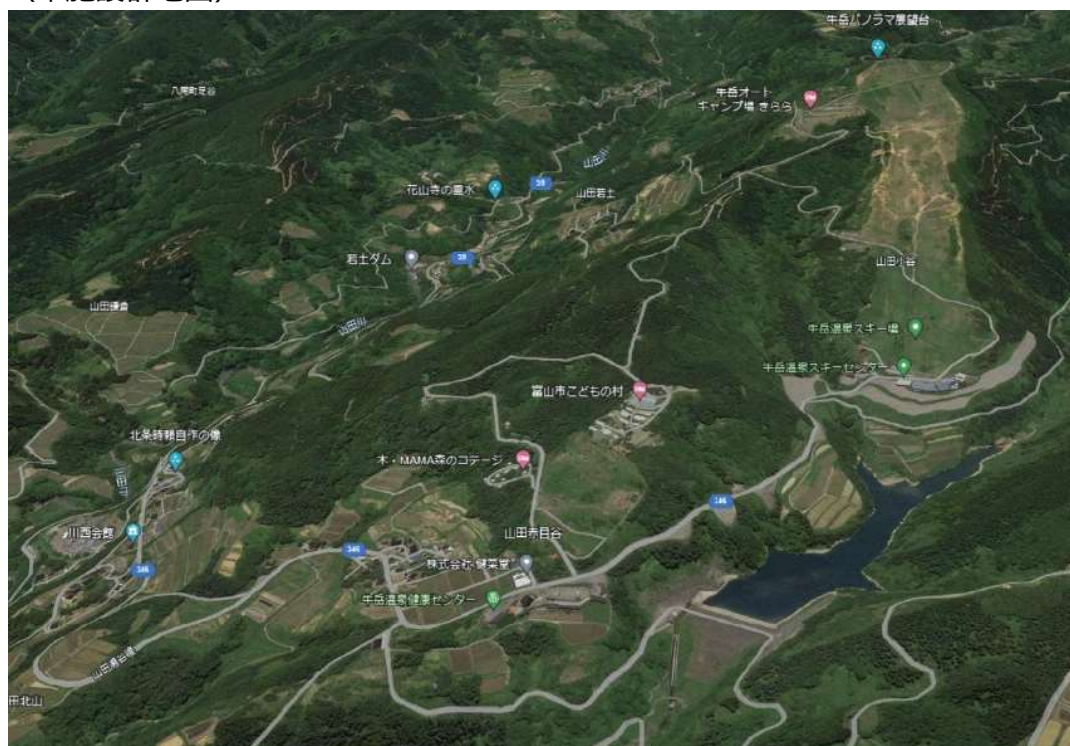
① 本施設群の概要

(位置・高度)

本市は富山湾に面し、海岸・港湾の海洋資源を有する一方、立山連峰をはじめとする山岳・雪山の自然資源にも恵まれており、中心市街地と合わせて多様な観光資源を有しています。

このうち、内陸部に位置する牛岳温泉スキー場及び周辺施設（以下、「本施設群」という）は、富山駅から約27km（自動車移動で45分程度）の位置にあり、地域のレクリエーション・観光施設としての役割を果たしています。牛岳温泉スキー場のトップ位置の標高は約650m、ボトム位置は約330mであり、ゲレンデの高低差は約320m、平均斜度約10度、最大斜度約20度と、初級及び中級者の滑りやすいスキー場といえます。

(本施設群地図)



(出典) Google Earth

(気候)

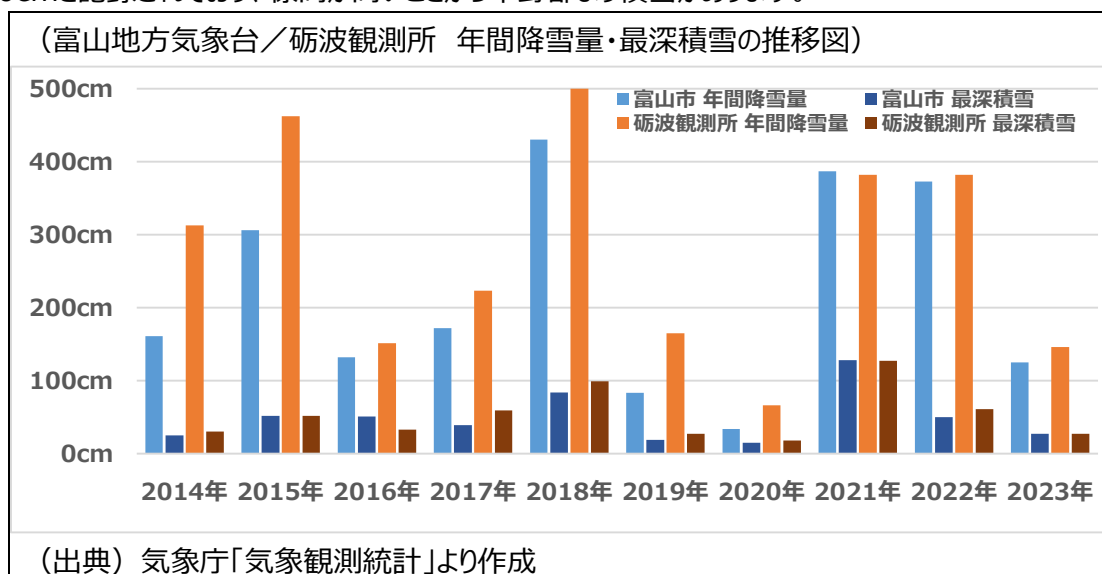
富山地方気象台による富山市の過去30年間〔1991年（平成3年）～2020年（令和2年）〕の平均気温は14.5度、平均降水量は2,374mm、年間平均降雪量（降雪の深さ）は253cmであり、うち12月49cm、1月104cm、2月84cm、3月17cm、4月1cmとなっています。

近年の降雪量は、この10年間〔2015年（平成27年）～2024年（令和6年）〕においては、300cmを上回った年は4回、200cm台の年はなく、100cm台が4回、100cmを下回った年は2回であり、まとまった降雪のある年が少なくなっています。また、最深積雪（その年の最も積雪のあつ

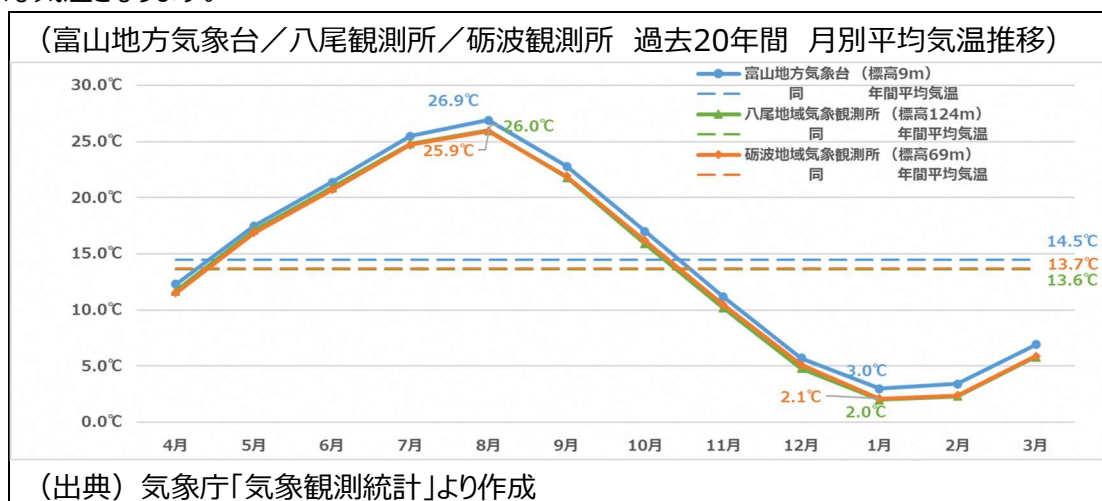
た深さ) が100cmを上回ったのはこの10年間で1回だけであり、50cm以下は6回と過半を占め、積雪の多い年が減少していることから、人工造雪機を有する牛岳温泉スキー場は県内他のスキー場がない特徴あるスキー場といえます。

また、富山市外で本施設群に最も近い観測所である砺波地域気象観測所では、降雪の深さ374cmであり富山地方気象台より100cm以上深いものの、過去10年間の最深積雪は50cm以下の年が5回であり、同様に降雪量が少ない年が多くなっています。

なお、2023年（令和5年）の最深積雪量は、富山地方気象台及び砺波地域気象観測所いずれも27cmであるのに対して、スキー場検索サイト（スノーライン）によると、牛岳温泉スキー場は60cmと記録されており、標高が高いことから平野部より積雪があります。



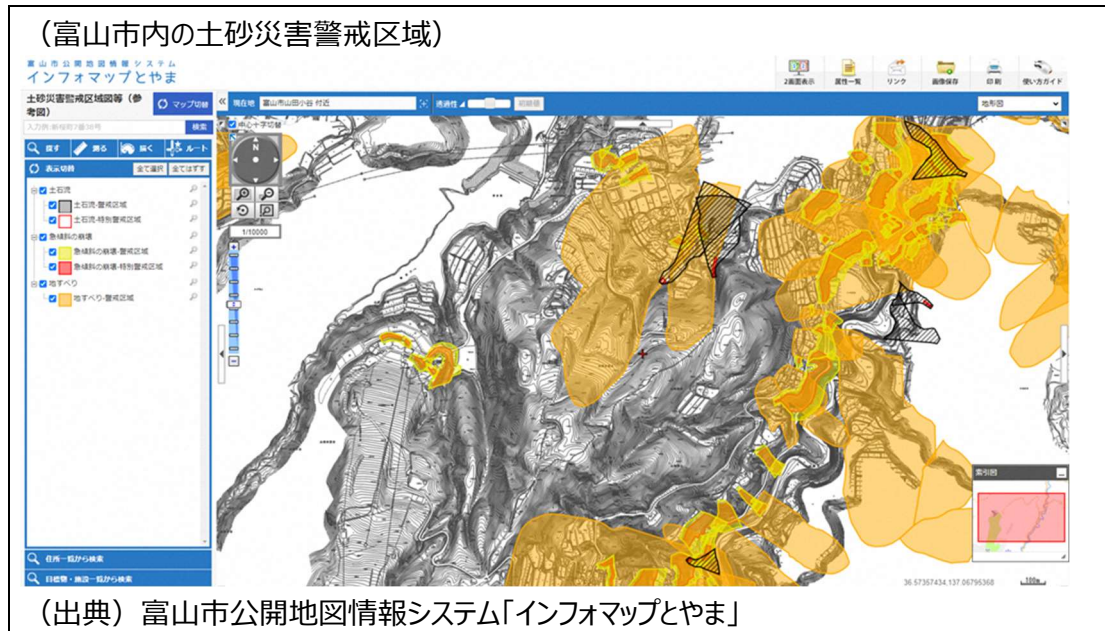
なお、本施設群の富山市内における近傍の気象庁観測所としては、八尾地域気象観測所があり、富山地方気象台より標高が約100m高く、過去30年間の平均では、年間平均、1月及び8月平均気温は同気象台より約1度低くなっています。気象情報サービス（ウェザーニュース）によると、牛岳温泉スキー場付近は、富山市中心部より最低気温で約4度、最高気温で約2度ほど冷涼な気温となります。



（関連計画の方向）

本施設群は、神通川森林計画区にあり森林保全が求められるほか、牛岳温泉スキー場は牛岳県定公園に含まれるため、開発には県に保全配慮の助言、補助について協議する必要があります。

また、牛岳温泉スキー場に連絡する出入口箇所の県道346号山田湯谷線付近及び湯谷川ダム下流の渓流部は、急傾斜地の崩壊（警戒区域、特別警戒区域）に地域指定されているほか、赤目谷地区は、土石流危険渓流に地域指定されています。さらに、山田交流促進センターは、山田地域の第1次避難場所に指定されており、避難所機能を確保する必要があります。



なお、2021年（令和3年）12月に改訂された「富山市公共施設等総合管理計画」では、レクリエーション・観光施設は、民間への事業移管、行政目的の高い施設以外の施設について廃止の推進のほか、改修は利用者の安全性の確保及び費用対効果の高いものを中心に実施することなどが示されています。

2021年（令和3年）9月に策定された「富山市過疎地域持続的発展計画」においては、山田地域が過疎地域から外れたものの、2026年度（令和8年度）まで経過措置が適用される特定市町村に指定されました。この計画では、公共施設等総合管理計画との整合を図るほか、移住・定住（農山漁村滞在型旅行）、地域間交流（都市部の住民との交流）、観光・交流施設整備事業を事業計画に位置づけています。また、山田地域の一部は「辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律（辺地法）」により、辺地対策事業の対象となっています。

2017年（平成29年）3月策定の「富山市観光戦略プラン」においては、目指す将来の観光像を『豊かな自然の中で輝く人間交流都市 ～ AMAZING TOYAMA ～』と設定し、滞在型・交流型観光、外国人スキー客の誘致等を推進してきたところです。

2026年度（令和8年度）までを計画期間とする現行の「第2次富山市総合計画 後期基

本計画」では、広域・滞在型観光の推進のため、「富山を拠点とした広域観光の推進」「富山の魅力を活用した滞在型観光の推進」「インバウンド（外国人客観光客）の誘致推進」に取り組んでいます。

（関連計画における位置づけ）

前述した関連計画の方向と、本施設群の位置づけは、次のとおり、整理することができます。

- **防災上の位置づけは、山田交流促進センターは第1次避難所に指定されており、再整備に留意を要します。**
- **公共施設管理の観点からは、民間への事業移管ができない場合、行政目的の低い施設の廃止、または、安全性確保及び費用対効果の高い改修を実施します。**
- **本施設群は神通川森林計画区にあるため森林保全に留意する必要があるほか、牛岳温泉スキー場は牛岳県定公園に含まれることから開発には保全配慮が求められます。**
- **山田地域は、過疎地域の特定市町村として経過措置が適用されるほか、一部は辺地対策事業の対象であり、滞在型旅行、観光・交流施設整備等を事業計画に位置づけています。**
- **観光戦略、総合計画においては、広域・滞在型観光に取り組んでおり、本施設群は、自然や眺望、レクリエーション施設を活用した、富山駅周辺部との広域観光、魅力を活用した滞在型観光、地域間の交流観光に資することが期待されています。**

② 本施設群についての運営状況及び施設改修の経緯

（運営状況）

本施設群のうち、牛岳ハイツは1997年（平成9年）より休止（トイレのみ開放）、牛岳運動広場等利用促進施設（てんころの館）は2014年（平成26年）より食堂休止（冬季に休憩所として開放）しています。

このほかの施設のうち、牛岳温泉スキー場、牛岳オートキャンプ場、山田交流促進センター、以上3施設は市直営、牛岳温泉健康センターは指定管理者による運営〔次期：2024年度（令和6年度）～2025年度（令和7年度）〕となっています。牛岳オートキャンプ場及び山田交流促進センターは、牛岳オートキャンプ場管理組合に管理委託しています。

	施 設 名	竣工 年度	現在の運営形態				土地の状況		備 考
			直営	指定 管理	休止	廃止	借地	市有 地	
1	牛岳温泉スキー場	1971 (S46)	○				○		
2	牛岳温泉健康 センター	1990 (H2)		○			○		指定管理者：(株)石橋 指定管理期間：R 元～ R5（次期：R6～R7）
3	牛岳オートキャンプ場 きらら	2000 (H12)	○				○		牛岳オートキャンプ場管理 組合へ管理委託
4	山田交流促進 センター	1994 (H6)	○				○		牛岳オートキャンプ場管理 組合へ管理委託。山田地 域の第一次避難所に指 定。
5	牛岳運動広場等利 用促進施設 (てんころの館)	1992 (H4)			○			○	H26 食堂休止。冬場は 無料休憩所として利用。
6	牛岳ハイツ	1985 (S60)			○			○	H9 休止。トイレのみ開放
7	牛岳運動広場 (赤とんぼ広場)	1985 (S60)			○			○	貸出休止中
8	温泉源泉・給湯施 設	1998 (H10)	○				○		湯量・湯温は安定している が、配管等の設備が老朽 化している。

（固定資産台帳における改修履歴の確認）

富山市固定資産台帳上における、建築物の改築、建物付属設備の更新の履歴は、山田交流促進センターについては1995年（平成7年）に建築物取得以後は、2001年（平成13年）に更新されていますが、この施設以外には、資産計上をとまなう建築物、建物付属設備（空調・衛生・電気設備等）の更新が計上されておらず、施設の老朽化が進んでいる状況が確認できます。

2023年度（令和5年度）に別途、実施された本施設群についての劣化状況調査では、建築物及び電気・機械設備の平均評価として、「平均B：部分的に劣化」評価に該当するのは2施設（牛岳オートキャンプ場きらら、山田交流促進センター）、その他施設は「平均C：広範囲に劣化」と評価されています。

本施設群の各施設を維持していくには、老朽化に対応した大規模修繕、設備更新のほか、施設転用等のための改修に費用を要すると見込まれます。

劣化状況の詳細な調査結果については、「牛岳温泉スキー場及び周辺観光施設劣化状況調査業務」報告書を参照。

③ 本施設群の再整備に際しての課題

各施設は1985年（昭和60年）から2000年（平成12年）までに建設されていて、建築及び設備の老朽化が進行しています。固定資産台帳における改修更新の履歴が確認できるのは、山田交流促進センターのみであり、本施設群は空調・衛生・電気等の設備の法定耐用年数である15年以上経過し、再整備には新たな投資が必要と考えられます。特に、劣化状況調査では牛岳オートキャンプ場きらら及び山田交流促進センターを除いて、広範囲に劣化と判断されています。

（２）本市域を取り巻くレクリエーション・観光の動向

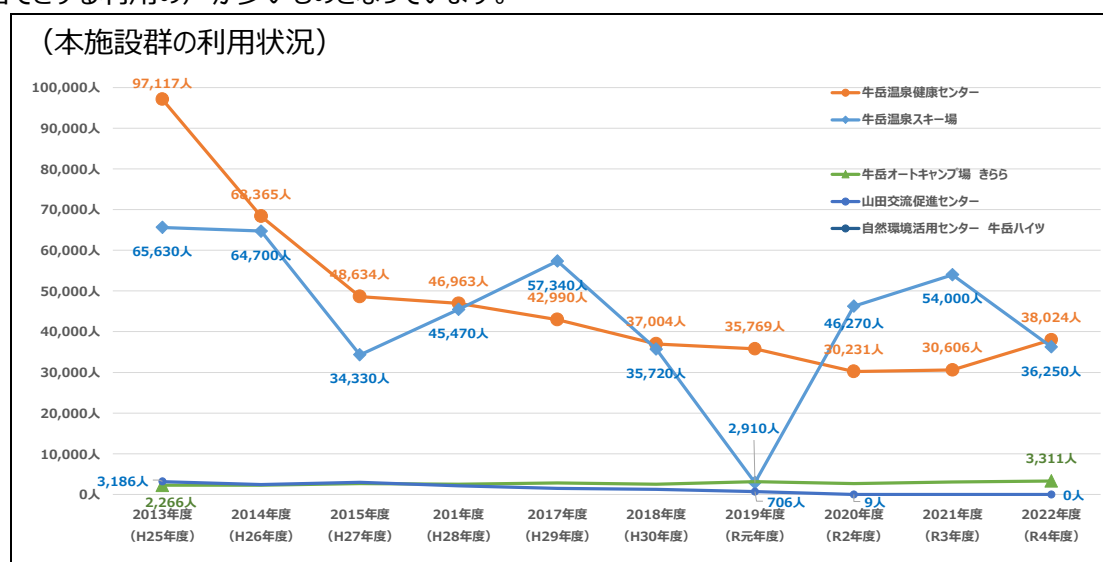
① 観光動向

（山田地域における観光動向）

本施設群の利用状況をみると、牛岳温泉健康センター及び牛岳温泉スキー場の利用者が大半を占めています。

後述するように、コロナ禍における利用制限、利用者減少から、全国的には、スキー場、オートキャンプ場は回復傾向にあり、温泉は利用者の回復途中にあることから、本施設群も同様の傾向にあります。牛岳温泉スキー場の利用者は、2022年度（令和4年度）に36,250人とコロナ禍前の水準となったものの暖冬の影響を受ける年には大きく減少し、牛岳温泉健康センターは38,024人とコロナ禍前の水準を上回りました。

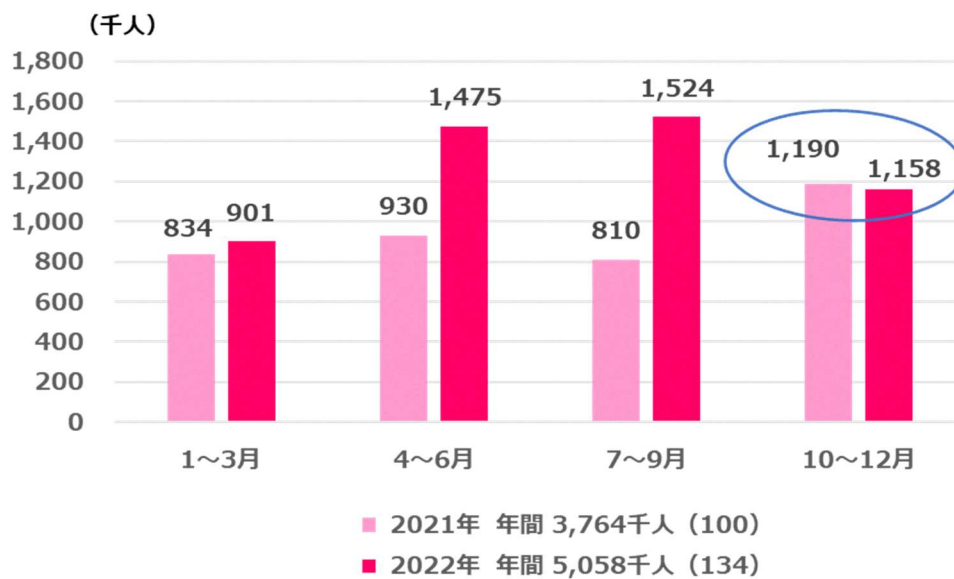
また、牛岳オートキャンプ場きらは、2022年度（令和4年度）に3,311人の利用があり、直近10年間で最も多い利用がありました。利用者の居住地は、市内・県内及び石川県内が多いほか、南関東、愛知県、京阪神からの比較的遠方からの利用者に二分され、キャンプ場からの景色を目当てとする利用の声が多いものとなっています。



（富山市域における観光動向）

市内観光客数は、コロナ禍からの回復傾向にあるものの、秋冬期における戻りが、県全体と比較して弱いものとなっており、市内においては、2022年（令和4年）に夏期の観光客が最大となっています。

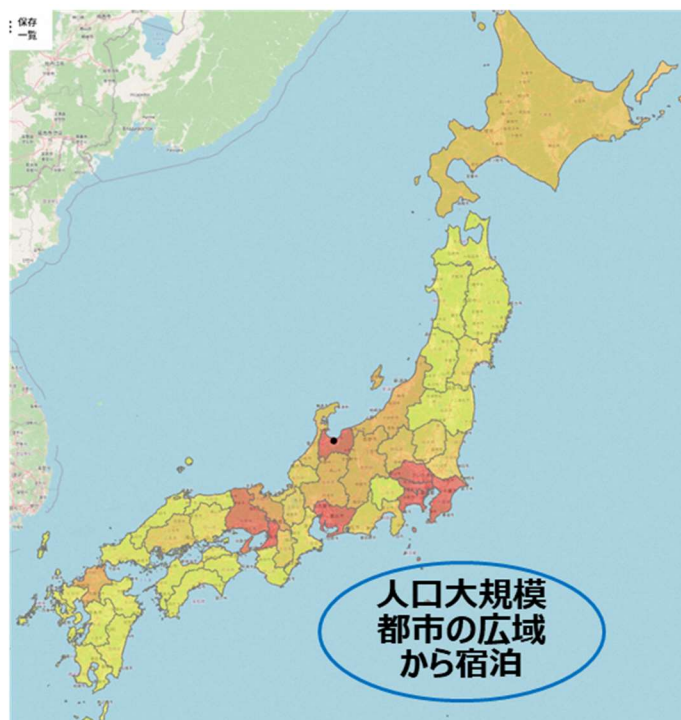
(富山市内への観光客数)



(出典) 富山県「観光統計」より作成

また、観光・業務等の全ての目的による市内への宿泊客は、関東・愛知・京阪神・福岡からの来訪が多く、大都市圏からの宿泊客が中心層となっています。(※内閣府RESAS：内閣府の提供する経済関連のビッグデータ)

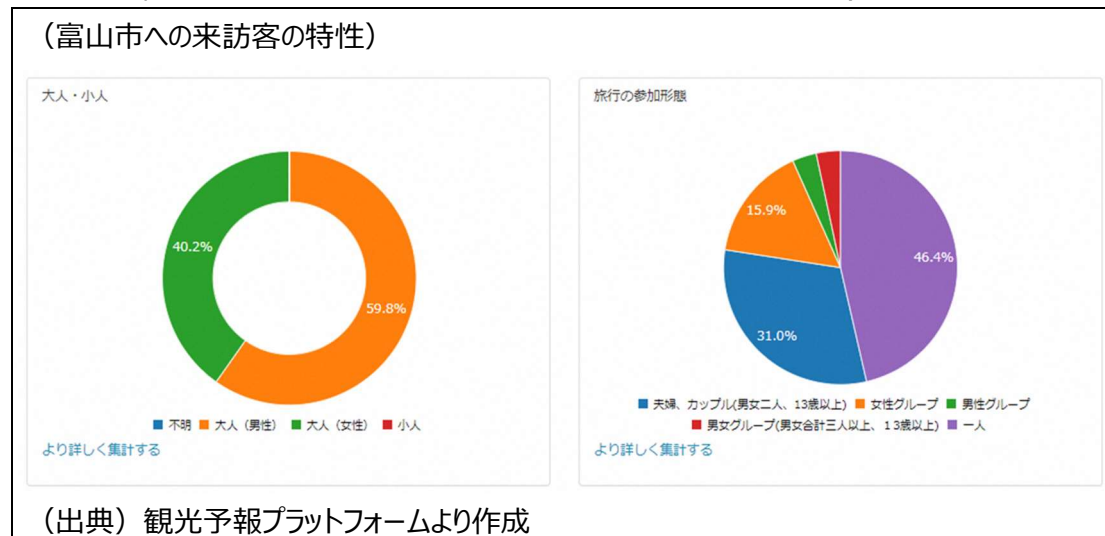
(富山市内への宿泊客の居住地)



- (2023年7～10月：
- 第1位 東京都
 - 第2位 神奈川県
 - 第3位 埼玉県
 - 第4位 大阪府
 - 第5位 千葉県
 - 第6位 愛知県
 - 第7位 兵庫県
 - 第8位 京都府
 - 第9位 富山県
 - 第10位 福岡県)

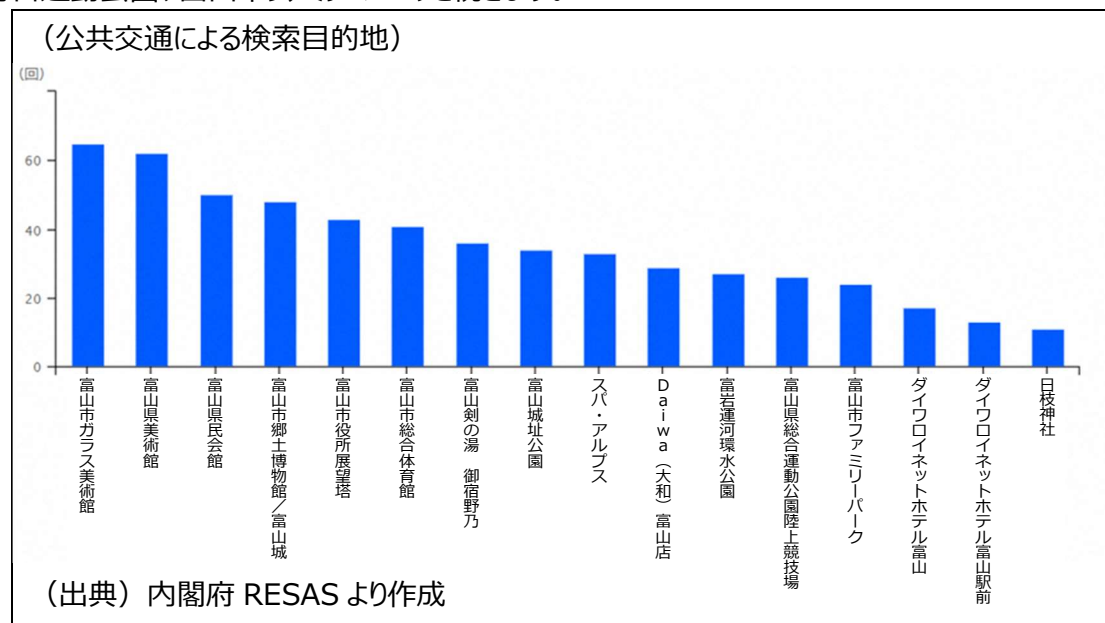
(出典) 内閣府RESASより作成

さらに、同様に全ての目的による富山市に訪れる客は、約60%が男性、約40%が女性であり、1人で訪れる（業務等含む）が多く、次いでカップル、女性グループの順に多いものとなっています。（※観光予報プラットフォーム：観光庁の提供する観光関連のビッグデータ）



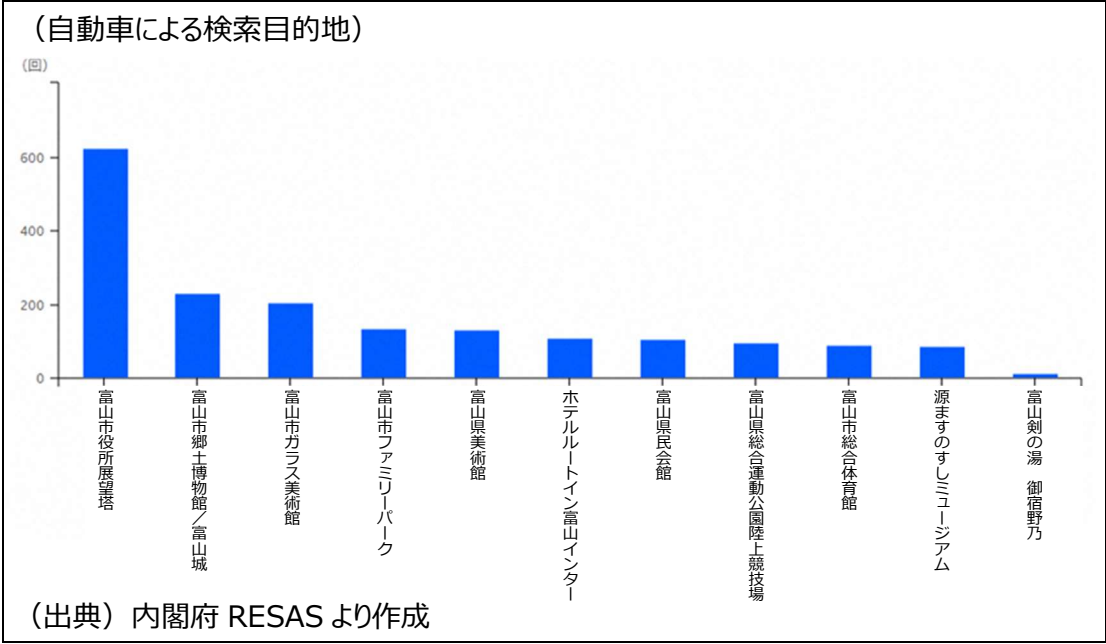
（富山市域における観光・目的地）

内閣府RESASにおいて、公共交通による市内の目的地検索の対象は、富山市ガラス美術館、富山県美術館が多く、以下、富山県民会館、富山市郷土博物館、富山市役所展望塔、富山市総合体育館、御宿野乃、富山城址公園、スパ・アルプス、大和、富岩運河環水公園、富山県総合運動公園、富山市ファミリーパークと続きます。



一方、自動車による市内の目的地検索は、富山市役所展望塔が最も多く、富山湾や立山連峰、市街地等の眺望に関心が寄せられています。このほか、郷土博物館、ガラス美術館、ファミリー

パーク、県美術館、 ホテルルートイン富山インター、県民会館、県総合運動公園、富山市総合体育館、源ますのすしミュージアム、御宿野乃、以上が目的地として検索されています。

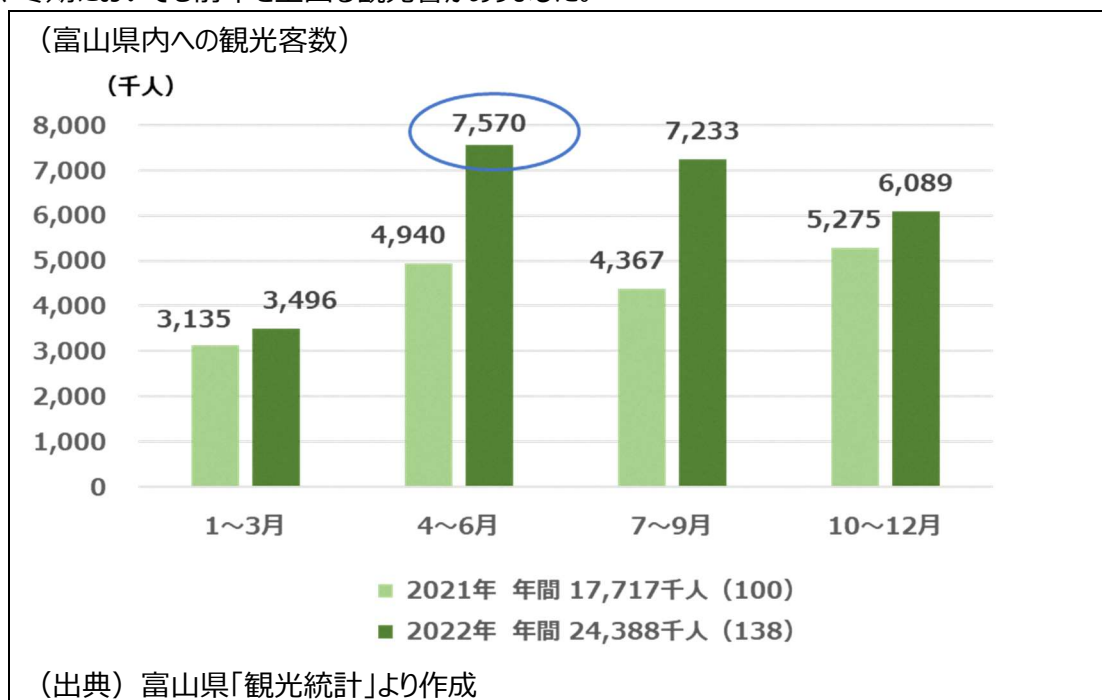


公共交通、自動車いずれも「牛岳」地名を含む施設は上位に検索されておらず、知名度向上の余地があります。本施設に近傍である内陸部の検索目的地のうち、源ますのすしミュージアムについて、検索元の地域を示すと下図のとおり、北陸、信越を中心に、一部、3大都市圏から検索されており、既往の日帰り観光施設の誘客範囲は、牛岳オートキャンプ場きさら利用者と比較的類似の圏域となります。



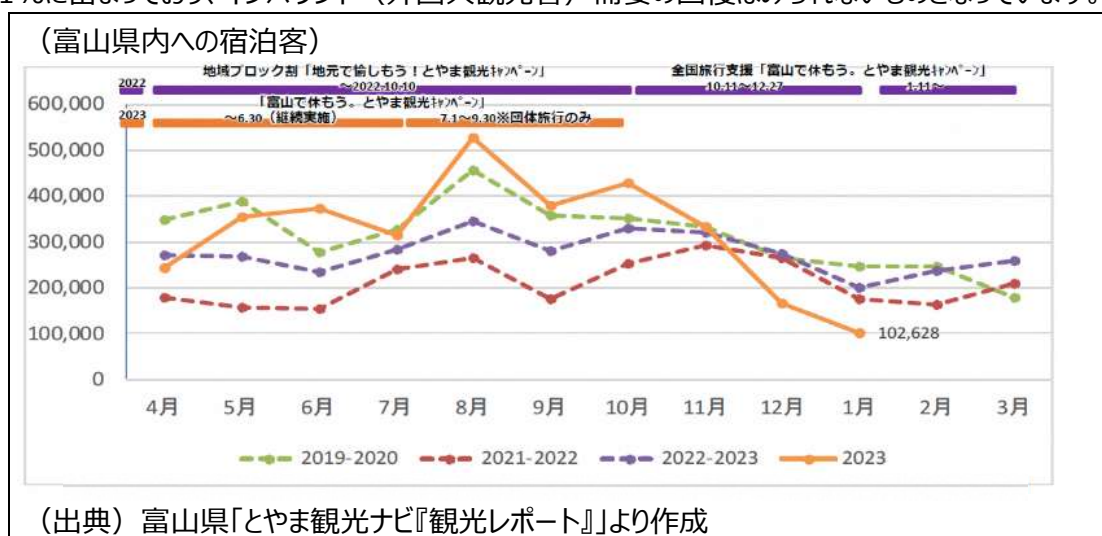
(富山県内及び全国の観光動向)

県全体への観光客は、対前年38%増となり富山市観光と同様にコロナ禍からの回復傾向にあります。2022年（令和4年）における富山県内への観光客は、春期から初夏に最も多い特徴があり、冬期においても前年を上回る観光客がありました。



また、2023年（令和5年）に入り、富山県内宿泊者はコロナ禍以前の水準と予測されていましたが、2024年（令和6年）1月の能登半島地震により宿泊者数の大幅な減少がみられます。

さらに、2022年（令和4年）における県内への海外からの宿泊者はコロナ禍以前に対して約11%に留まっており、インバウンド（外国人観光客）需要の回復はみられないものとなっています。



(富山県内への外国人宿泊客)

(単位:人)

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	対前年 同期比
総 数	287,720	306,200	357,830	50,770	10,870	41,660	383.3%
台 湾	86,640	90,680	99,010	11,410	100	1,460	1460.0%
韓 国	34,140	29,880	20,460	1,020	520	1,850	355.8%
中 国	23,110	31,130	34,970	5,000	1,020	2,080	203.9%
香 港	34,280	33,440	32,760	2,210	20	1,820	9100.0%
タ イ	9,220	10,440	10,020	2,190	80	1,030	1287.5%
小 計	187,390	195,570	197,220	21,830	1,740	8,240	473.6%

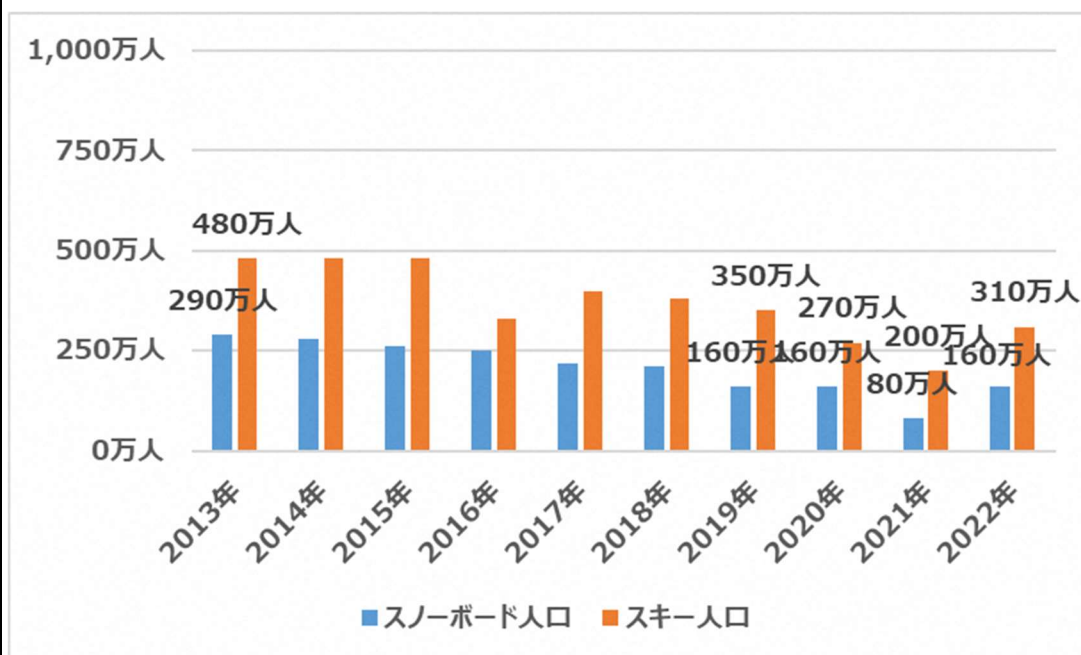
(出典) 富山県「観光統計」より作成

② レクリエーション動向

(スキー・スノーボード)

わが国におけるスキー人口は、アンケートによる参加率をもとに算定すると、長期的に減少傾向にあります。2022年にはコロナ禍以前の水準まで回復し、2021年（令和3年）には落ち込んだスノーボード人口も同様に回復しています。

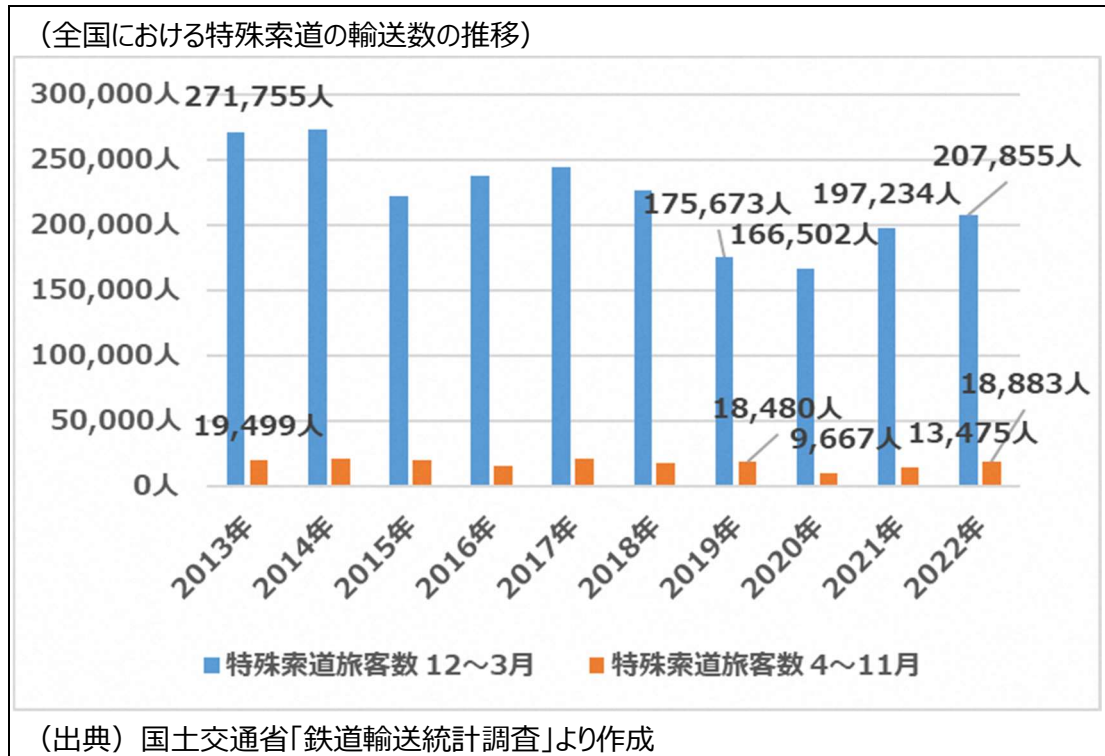
(全国のスキー・スノーボード人口)



(出典) 公益財団法人日本生産性本部「レジャー白書」より作成

リフトなど、開放された乗り物による索道である「特殊索道」（※ゴンドラ、ロープウェイ等の囲われた乗り物は普通索道）の全国の12月～3月までの輸送数についても参加人口と同様に回復し、コロナ禍以前の2019年（令和元年）を上回るものとなっています。

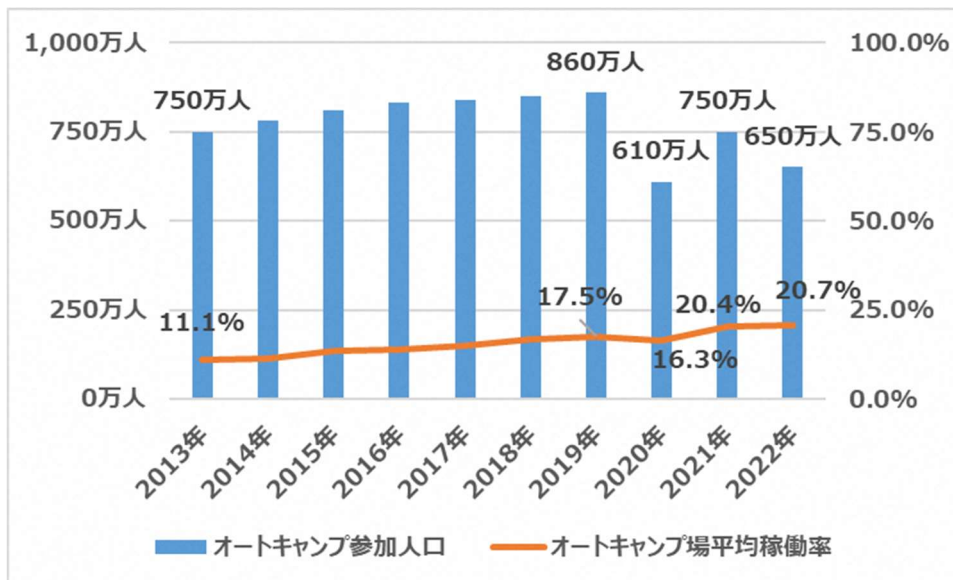
また、グリーンシーズンといわれる、4月～11月までの特殊索道による輸送数は、冬期より絶対数は少ないものの、2020年（令和2年）の2倍近くまでとなり、冬期よりグリーンシーズンにおける特殊索道の利用者の増加率が高いものとなっています。



（オートキャンプ場）

全国的にみたオートキャンプ場の参加人口は、コロナ禍以前に増加傾向にあったものが、コロナ禍期に減少し回復途中にあるものの、参加者の宿泊日数の増加により、オートキャンプ場施設の平均稼働率は20%を上回り増加しています。

(全国のオートキャンプ参加人口とオートキャンプ場平均稼働率の推移)

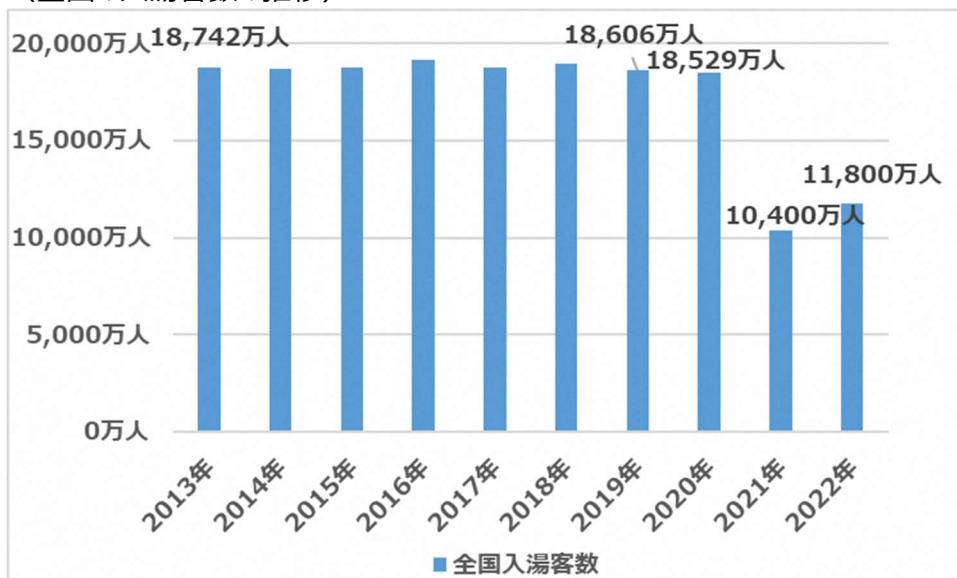


(出典) 一般社団法人日本オートキャンプ協会「オートキャンプ白書」より作成

(温泉)

温泉入浴時に徴収される入湯税にもとづく全国の入湯客数は、従前、1億8,000万人台で推移してきましたが、コロナ禍に約1億人まで落ち込み、直近での入湯客数の大きな回復はみられない状況となっています。

(全国の入湯客数の推移)



(出典) 総務省「入湯税に関する調」より作成

（３）再整備に係る類似施設の動向

① 北信越における公営施設の民間運営動向

（スキー場）

北信越地域におけるスキー場は、下記のとおり整理することができ、公営または公共性の高い財団法人等により運営されている施設を下線で示すと、北陸3県においては、公営またはそれに準ずる運営が比較的継続されているものの、新潟県及び長野県においては民営スキー場が多くを占めています。

こうした民営スキー場は、全国的に展開するホテル事業者がグループ一体となり、開発から手掛けてきたものと、地域の企業が運営に携わっている施設があるほか、近年は民営化に転じて専門事業者が運営する例があります。なお、こうした民営化により運営する事業者は、公営スキー場だけではなく、既往の民間スキーの再生運営に携わる事例があり、スキー場運営の形態に変化が生じています。

【富山県】 8施設（うち公営2）

- タカンボスキー場（富山県南砺市）上平観光開発株式会社
- 立山山麓あわすのスキー場（富山県富山市）特定非営利活動法人あわすの
- 立山山麓スキー場（富山県富山市）大山観光開発株式会社
- たいらスキー場（富山県南砺市）株式会社長田組
- となみ夢の平スキー場（富山県砺波市）砺波市五谷観光企業組合
- 牛岳温泉スキー場（富山県富山市）富山市
- 宇奈月スノーパーク：旧宇奈月温泉スキー場（富山県黒部市）黒部市
- イオックス・アローザ（富山県南砺市）医王アローザ

【石川県】 8施設（うち公営4）

- 白山一里温泉スキー場（石川県白山市）株式会社スノーエリアマネジメント白山
- 白山セイモアスキー場（石川県白山市）株式会社スノーエリアマネジメント白山
- 金沢市営医王山スキー場（石川県金沢市）金沢市スポーツ事業団
- 大倉岳高原スキー場（石川県小松市）小松市まちづくり市民財団
- 七尾コロサスキー場（石川県七尾市）七尾市
- 輪島市営三井スキー場（石川県輪島市）輪島市
- 白蜂アルペン競技場：旧温泉スキー場（石川県白山市）NPO法人白峰スノースポット
- 白峰クロスカントリー競技場：旧クロスカントリー場（石川県白山市）NPO法人白峰スノースポット

【福井県】 8施設（うち公営5）

- スキージャム勝山（福井県勝山市）東急リゾーツ&ステイ株式会社
- 九頭竜スキー場（福井県大野市）森山観光株式会社
- 福井和泉スキー場（福井県大野市）福井和泉リゾート株式会社

- 新保ファミリースキー場（福井県池田町）池田町
- 今庄365スキー場（福井県南越前町）南越前町
- 筋生田スキー場（福井県鯖江市）鯖江市
- 大野市DAINOUスポーツランド：旧IZUMIクロスカントリースキー場（福井県大野市）大野市
- 六呂師高原スキーパーク：旧六呂師高原スキー場（福井県大野市）大野市

【新潟県】 21施設（うち公営1）

- 石打丸山スキー場（新潟県南魚沼市）アルピナBI株式会社(旧大生総業株式会社に譲渡)
- 苗場スキー場（新潟県湯沢町）株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
- 妙高杉ノ原スキー場（新潟県妙高市）株式会社プリンスホテル
- 湯沢高原スキー場（新潟県湯沢町）湯沢高原株式会社
- かぐらスキー場：旧みつまた/田代スキー場（新潟県湯沢町）株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
- 湯沢中里 スノーリゾート（新潟県湯沢町）株式会社スマイルスキーリゾート
- GALA湯沢スキー場（新潟県湯沢町）JR東日本グループ・株式会社ガーラ湯沢
- 赤倉温泉スキー場（新潟県妙高市）株式会社鈴木商会
- 六日町八海山スキー場（新潟県南魚沼市）株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
- ムイカスノーリゾート：旧六日町ミナミスキー場（新潟県南魚沼市）株式会社六日町リゾート
- 湯沢パークスキー場（新潟県湯沢町）株式会社サクセスリゾート越後湯沢ホテル
- 三川温泉スキー場（新潟県阿賀町）阿賀町
- ニュー・グリーンピア津南スキー場（新潟県津南町）株式会社津南高原開発
- 一本杉スキー場（新潟県湯沢町）一本杉スキー場施設株式会社
- キューピットバレイ（新潟県上越市）株式会社スマイルスキーリゾート
- ナスパススキーガーデン（新潟県湯沢町）ナスパススキーガーデン
- 池の平温泉アルペンブリックススキー場（新潟県妙高市）アルペンブリックリゾート
- シャルマン火打スキー場（新潟県糸魚川市）火打山麓振興株式会社
- 湯沢中里スノーリゾート：旧中里スキー場（新潟県湯沢町）株式会社スマイルスキーリゾート
- 松之山温泉スキー場（新潟県十日町市）有限会社湯米心まつのやま
- 上越国際スキー場（新潟県十日町市）株式会社上越観光開発

【長野県】 72施設（うち公営3）

- 栂池高原スキー場（長野県小谷村）栂池 Gondolaリフト/栂池観光開発/白馬館
- 富士見パノラマリゾート（長野県富士見町）株式会社スコットジャパン
- 八千穂高原スキー場（長野県佐久穂町）アドバンス株式会社
- 湯の丸スキー場（長野県東御市）湯の丸観光開発株式会社
- エイブル白馬五竜スキー場（長野県白馬村）株式会社五竜

- 軽井沢プリンスホテルスキー場（長野県軽井沢町）プリンスホテル
- 車山高原SKYPARKスキー場（長野県茅野市）信州総合開発観光株式会社
- 野沢温泉スキー場（長野県野沢温泉村）株式会社野沢温泉
- 富士見高原スキー場（長野県富士見町）富士見高原リゾート株式会社
- 白馬八方尾根スキー場（長野県白馬村）八方尾根開発/白馬観光開発株式会社
- 戸隠スキー場（長野県長野市）株式会社戸隠
- 治部坂高原スキー場（長野県阿智村）治部坂観光株式会社
- 戸狩温泉スキー場：旧太田スキー場（長野県飯山市）戸狩温泉スキー場株式会社
- ブランシュたかやまスキーリゾート（長野県長和町）株式会社マウント長和 引継
- 焼額山スキー場（長野県山ノ内町）プリンスホテル
- 斑尾高原スキー場（長野県飯山市）斑尾ホスピタリティ合同会社
- 白樺高原国際スキー場（長野県立科町）しらかば高原株式会社
- 黒姫高原 スノーパーク（長野県信濃町）株式会社マックアース
- 野麦峠スキー場（長野県松本市）株式会社岳都リゾート開発
- 志賀高原 蓮池スキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- やぶはら高原 スキー場（長野県木祖村）奥木曽グリーンリゾート株式会社
- よませ温泉スキー場（長野県山ノ内町）株式会社マックアース
- 白馬さのさかスキー場（長野県白馬村）株式会社White Resort白馬さのさか
- HAKUBA VALLEY 鹿島槍スキー場：旧鹿島槍国際・旧サンアルピナ鹿島槍スキー場（長野県大町市）株式会社鹿島槍
- ピラタス蓼科スノーリゾート（長野県茅野市）株式会社北八ヶ岳リゾート
- シャトレーズスキーバレー野辺山（長野県川上村）株式会社シャトレーズリゾート八ヶ岳
- REWILD NINJA SNOW HIGHLAND：旧峰の原高原（長野県須坂市）信光オールウェイズ
- 志賀高原 サンバレースキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- 白馬乗鞍温泉スキー場（長野県小谷村）株式会社白馬アルプスホテル
- 横手山・渋峠スキー場（長野県山ノ内町）株式会社S&T観光開発
- シャトレーズスキーバレー小海（長野県小海町）シャトレーズスノーリゾート八ヶ岳
- 霧ヶ峰スキー場（長野県諏訪市）諏訪市
- Hakuba47 ウィンタースポーツパーク（長野県白馬村）株式会社白馬フォーティセブン
- 菅平高原パインビークススキー場（長野県上田市）株式会社マックアース
- 爺ガ岳スキー場（長野県大町市）大町温泉観光株式会社
- 志賀高原 高天ヶ原マンモススキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- 志賀高原 ジャイアントスキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- しらかば2in1 スキー場（長野県立科町）しらかば高原株式会社
- 菅平高原 奥ダボススノーパーク(スキー場)（長野県上田市）上田リゾート観光株式会社
- 小丸山スキー場（長野県山ノ内町）北志賀藤田観光株式会社

- 熊の湯スキー場（長野県山ノ内町）熊の湯リフト株式会社
- 番所ヶ原スキー場（長野県上田市）一般財団法人上田市地域振興事業団
- 白馬岩岳スノーフィールド（長野県白馬村）株式会社岩岳リゾート
- 寺小屋スキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- 木曽福島スキー場（長野県木曽町）株式会社nation
- ヤマボクワイルドスノーパーク：旧山田牧場スキー場（長野県高山村）株式会社山田牧場
- 斑尾高原（長野県飯山市）斑尾高原観光協会
- タングラムスキーサーカス（長野県信濃町）東急リゾーツ&ステイ株式会社
- ブルーリゾート乗鞍（長野県松本市）株式会社Blue Resort 乗鞍
- さかえ倶楽部スキー場（長野県栄村）栄村
- 牧の入高原スノーパーク（長野県木島平村）有限会社浅日ゴルフ倶楽部
- あさひプライムスキー場（長野県朝日村）タジマモーターコーポレーション朝日
- 奥志賀高原スキー場（長野県山ノ内町）株式会社奥志賀高原リゾート
- 佐久スキーガーデンパラダ（長野県佐久市）株式会社平尾山観光
- 一の瀬ダイヤモンドスキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- 池の平スノーパーク：旧白樺リゾートスキー場（長野県立科町）株式会社池の平ホテル&リゾート
- 御嶽スキー場（長野県王滝村）株式会社シシ
- 高峰マウンテンパーク（長野県小諸市）株式会社アサマリリゾート
- 志賀高原発哺ブナ平スキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- ヘブンスそのはら（長野県阿智村）ジェイ・マウンテンズ・セントラル株式会社
- ポタスノーランド（長野県立科町）株式会社池の平ホテル&リゾート
- エイブル白馬五竜IIMORI（長野県白馬村）株式会社大糸
- 志賀高原一の瀬山の神スキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- 開田高原マイアスキー場（長野県木曽町）豊実精工株式会社
- 志賀高原 西館山スキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- 志賀高原 一の瀬ファミリースキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- 菅平高原ハーレスキーリゾート（長野県上田市）株式会社ハーレスキーリゾート
- 志賀高原 東館山スキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社
- 白樺湖ロイヤルヒルスキー場（長野県茅野市）株式会社鈴木商会
- 蓼科東急スキー場（長野県茅野市）東急リゾーツ&ステイ株式会社
- X-JAM高井富士（長野県山ノ内町）株式会社マックアース
- 志賀高原スキー場（長野県山ノ内町）志賀高原リゾート開発株式会社

（オートキャンプ場）

公営のキャンプ場、オートキャンプ場は、後述するように北信越地域に多く設置されていますが、これまでキャンプ人口の拡大があり、民間譲渡・民営化を検討する事例は限られたものとなっています。

近県で、民間譲渡・民営化を検討している例は次のとおり、新潟県及び長野県で先行的な取組がなされています。

- 和島オートキャンプ場（新潟県長岡市）
- 聖山パノラマオートキャンプ場（長野県長野市）

【富山県】 4 施設

- 富山市 牛岳オートキャンプ場きらら
- 南砺市 桂湖オートキャンプ場
- 南砺市 五箇山国民休養地キャンプ場
- 南砺市 閑乗寺公園キャンプ場

【石川県】 2 施設

- 七尾市 能登島家族旅行村 Weランド
- 能登町 九十九湾園地野営場

【福井県】 9 施設

- 福井市 ガラガラ山越前水仙の里キャンプ場
- 福井市 SSTランド
- 福井市 リズムの森
- 福井市 鮎川園地キャンプ場
- 大野市 九頭竜国民休養地オートキャンプ場
- 大野市 和泉前坂家族旅行村 前坂キャンプ場
- 大野市 麻那姫湖青少年旅行村
- 大野市 小池公園
- 南越前町 河野キャンプ場めだかの学校新潟県

【新潟県】 3 施設

- 三条市 三条市グリーンスポーツセンター
- 三条市 吉ヶ平自然体感の郷
- 三条市 八木ヶ鼻オートキャンプ場

【長野県】 1 2 施設

- 上田市 上田市市民の森キャンプ場
- 上田市 上田市巣栗キャンプ場
- 上田市 上田市別所温泉森林公園
- 長野市 聖山オートキャンプ場

- 長野市 戸隠キャンプ場
- 駒ヶ根市 駒ヶ根キャンプセンター
- 駒ヶ根市 戸倉山キャンプ場
- 伊那市 小黒川溪谷キャンプ場
- 伊那市 鹿嶺高原キャンプ場
- 豊丘村 野田平キャンプ場
- 富士見町 立場川キャンプ場
- 中野市 北信濃ふるさとの森文化公園

(温泉)

公営の日帰り温泉については、地域振興や住民交流、健康増進等の目的により平成年代初期に温泉掘削し新たに設置された施設が多く、各地で設備の老朽化の更新費用を要するため、施設を民間譲渡（無償譲渡の場合を含む）し、民間事業者に再生を託す事例が出てきています。

近県で、民間譲渡・民営化を検討している例は次のとおり、新潟県及び長野県で先行的な取組がなされています。

- 市営7温泉施設（新潟県上越市）
- 新穂湯上温泉（新潟県佐渡市）
- 市営2温泉施設（長野県中野市）
- あさしな温泉穂の香乃湯（長野県佐久市）
- 雲溪荘（長野県上田市）
- 馬曲温泉（長野県木島平村）

第2章 施設運営に係る地域・民間事業者の意向

(1) 牛岳地域における事業者等の意向

① 地域におけるワークショップの実施

地元住民の意見を伺い、地域の実情を把握するため、ワークショップを2回開催しました。

これらの意見からは、グリーンシーズンの活用、目的物となる造作等の設置、案内やPRの一体的な推進、といった案があげられました。

日 時	2023 年（令和 5 年）8 月 4 日（金） 19：00～20：30
参加者	参加者：18 名（地元：8 名、市役所：8 名、PMC：2 名）
テーマ1	牛岳の 目指す姿 目指した姿
意見 1	・<u>ファミリーが集まる場所。</u> ・子どもが安心して遊べる施設。 ・<u>通年で訪れてもらえるエリアに。</u>
テーマ2	牛岳でできたらいいな あんなこと こんなこと
意見 2	[ハード整備] ・休憩所、食事処の整備。 ・ファミリー向けのアスレチック施設整備。 ・登山道（遊歩道）の整備、案内看板も合わせて整備。 ・ジップラインの整備。 [ソフト整備] ・リフトのオールシーズン稼働。 ・牛岳周辺のガイドの育成。 ・イベントの開催（音楽祭など）

日 時	2023 年（令和 5 年）11 月 2 日（木） 19：00～20：30
参加者	参加者：16 名（地元：7 名、市役所：7 名、PMC：2 名）
テーマ3	牛岳を多くの人に知ってもらうためにやりたいこと・できること
意見 3	・まずは山田地域をはじめ地元の人に牛岳の良さを知ってもらう。 ・<u>スキー場山頂からの眺めは他にはないので</u>、PR や滞在時間を増やす仕掛け。 ・牛岳エリアの統一ロゴ、マスコットの作成

② 民間事業者ヒアリングの実施

スキー場や公共施設管理運営に実績を有する事業者に対して、本施設群の市場性、再整備事業への参画条件等を把握するためにヒアリングを実施しました。

スキー場については、ターゲット層を明確に設定すべきであり、基本的な商圈は市内県内が中心と

なるが、戦略次第で近県（90～120分圏）等からの誘客も想定されること、老朽化した既往施設も活用可能性があることなどの意見を確認できました。また、オートキャンプ場の立地とともに、展望・眺望の良さを活かすべきであり、また、グリーンシーズンへの誘客を図るべきとの意見があげられました。

オートキャンプ場は、眺望の良さに加えて、施設の老朽化が比較的進んでいないこと、コロナ後においてもオートキャンプがレクリエーションとして定着しつつあり、継続して施設を活用すべきであると意見があげられました。

このほか、温泉健康センターは、スキー場とセットで提供できるため、スキー場やアクティビティとの相性の良さがあるとの意見がありました。

民間参入の可能性については、施設を絞った上で参入することは可能であり、躯体及びインフラ部分を公共で修繕することが望ましいことや、近年の暖冬リスクに対する公共負担の検討、そして民間の自由裁量を採り入れた事業手法を検討すべき、などの意見がありました。

〔主なヒアリング項目〕

- 1 本施設群の集客市場性について（誘客圏・誘客層等）
- 2 本施設群のうち再整備可能性のある施設について（優先順位等）
- 3 考えられる本施設群の再整備・改修の方向性について（助言等）
- 4 事業者において施設への運営等参画を検討するための条件（対象施設・利用方法等）
- 5 事業者における施設への関与の可能性

〔ヒアリング事業者〕

	事業者名	事業内容	実績等
1		スキー場やキャンプ場、温泉宿泊施設などを手掛ける。	
2		スキー場やキャンプ場、野外教育活動などを手掛ける。	
3		ビルメンテナンス、通信、旅行業を手掛ける。	
4		トレーラーハウスを活用したエリア開発を手掛ける。	
5		スキー場やグランピングなどリゾート開発を手掛ける。	

[ヒアリングで得た意見]

項 目	意 見
①最近のスキー場やキャンプ場等の動向について	・スキー場は冬場のみの活用では採算はとれない。<u>資産を通年活用</u>することが重要。 ・一時期のキャンプブームは落ち着き、宿での宿泊に回帰傾向がみられる。 ・温泉施設はランニングコストがかかるが、スキーやキャンプなどアクティビティとの組み合わせは相性が良い。
②集客市場性について	・商圈は<u>市内県内</u>が中心。 ・駐車場施設、リフトの容量が利用者数に影響する。 ・スキー場上部からの眺望は、他にはない<u>素晴らしさ</u>がある。 ・ターゲット層を設定し、周辺との差別化を図るべき。 ・グリーンシーズン活用や女性客に目的を持ってもらうべき。 ・ニセコや白馬のようなインバウンド集客は難しい。
③施設の利活用について	・新たな施設の建設は必要ない。<u>既存施設の必要性を見極め</u>、利活用すべき。 ・老朽化進んだ施設は費用対効果を考えて残すべき。 ・施設の躯体及びインフラ部分は公共負担で修繕することが望ましい。 ・現在の暖冬傾向を踏まえると、概ね 10 年～15 年程度施設をもたせる考え方が望ましい。 ・今回は候補に挙がっていないが、豊富な体験プログラムを持つ野外活動センターの利用も検討してはどうか。
④民間参入の可能性	・施設を絞った上で、民間事業者が<u>参入することは可能</u>。 ・スキー場の運営に関し、<u>暖冬リスク</u>への負担を検討してほしい。 ・施設自体の利活用は、<u>民間の自由裁量</u>に任せてほしい。 ・生徒、児童の利用など教育委員会の協力を得たい。

(2) 地域・民間事業者の意向を踏まえた再整備の方向

地元住民、類似施設管理・運営実績を有する民間事業者へのヒアリングの結果、老朽化した施設と市場性が不足する施設を除き、スキー場、オートキャンプ場を基本として、付带的に温泉施設の継続を図ることが市場性に即していると確認できました。

また、再整備のためには、スキー場頂上からの眺望を活かし、グリーンシーズンを含めた通年の利用を促すことが求められます。

第3章 牛岳温泉スキー場及び周辺施設再整備コンセプトの検討・設定

(1) 再整備対象施設の範囲

施設の老朽化状況、関連計画等の位置づけ、施設の市場性、地元・事業者の参画意向にもとづいて、次のとおり、本施設群を2区分に分けて継続・再整備を検討します。

1. レクリエーション・観光施設として積極的な利活用を目指す施設群

2. 事業者からの提案を受けた上で、利活用の有無を検討する施設群

(2) 再整備の基本理念

ア. コンセプト

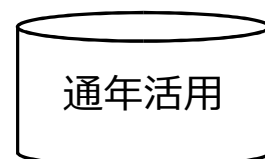
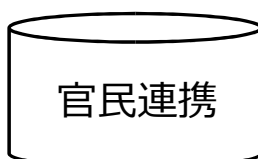
「誰もが集い、富山を見渡せる場所」

本施設群をグリーンシーズンは「頂上からの眺望が楽しめる絶景スポット」、スノーシーズンは「ウィンタースポーツが楽しめる場所」として位置づけ、県内及び隣接県に居住するファミリー層をメインターゲットに「誰もが集い、富山を見渡せる場所」を目指すこととします。

また、レクリエーション・観光施設は、民間事業者が比較的参入しやすい分野であることから、事業者にできるだけ自由な裁量権を与えることのできる手法の導入を検討することとし、事業期間は概ね10年～15年間とします。

イ. 再整備に向けた3つの柱

- ①官民連携：将来的に予想される本施設群運営に係る専門人材不足解消及び集客力を高める魅力ある運営を図るため、民間のノウハウを活かした利活用を目指します。
- ②集客向上：スキー場頂上からの眺望など、誘客のための新たな魅力あるコンテンツを造り、それを活かした集客及び滞在を促す整備を行います。
- ③通年活用：冬場のスキーだけではなく、キャンプ場や眺望等を積極的にPRし、周辺施設の年間活用を促すことで、地域の賑わいや通年雇用の創出を図ります。



ウ. 求められる機能

機 能	役 割	利活用対象施設例
① レクリエーション機能	年間を通して人が集い、家族や仲間などとともに健全な余暇活動を行うことができる拠点としての役割。	・牛岳温泉スキー場 ・オートキャンプ場きらら ・牛岳温泉健康センター ・山頂からの眺望
② 癒しの機能	心身ともに癒され、何度も訪れたい場所としての役割。	
③ 賑わい創出機能	牛岳及び山田地域活性化のための拠点としての役割。	

エ. 官民連携のための条件整理

本施設群については、民間事業者で利活用する場合は、躯体及びインフラ部分等については公共による整備負担を行い、魅力向上に係る改修等は受託事業者からの提案で行うものとします。

また、施設の管理運営等にはいくつかの方法が考えられますが、本市の従来の指定管理は、施設の維持管理に重点を置き、市が作成した仕様書に細かく実施しなければならない事項が記載されており、事業者の自由度はそれほど高くないものです。しかし、本施設群は、レクリエーション・観光施設であり、事業者の自由な発想により施設を運営していくことが求められることから、従来よりも自由度の高い指定管理を目指すこととし、具体的には下記の事項を踏まえ、事業者選定を進めていくこととします。

- ① 事業者へのサウンディングを行い、事業者からの提案を盛り込んだ自由度の高い仕様書を作成します。
- ② 原則 5 年以内とされる指定期間について、事業者の設備投資等が促進されるよう長期の指定期間の導入を目指します。
- ③ 個別の施設それぞれに対し指定管理者を募集するのではなく、複数の施設を一体的に運営できるよう、条例改正など必要な措置をとります。

（３）効率的な体制の検討

今後、施設の利活用を検討するにあたり、効率的な施設運営の体制を検討する必要があります。そのためには、上記「官民連携のための条件整理」であげたように、事業者からの提案を盛り込んだ自由度の高い仕様書の作成が求められます。

ついては、令和６年度は新たな機能の追加につながる事業者へのサウンディングを行い、民間事業者の参入条件を見極めた上で、公募要件等を定め、指定管理事業者の公募を実施します。具体的には、指定管理者を公募する際の仕様書について、要求水準書に準じた「性能発注」の考え方を取り入れ、指定管理者を公募するための条件をサウンディングにより確認します。

（本施設群の利活用方針まとめ）

１．レクリエーション・観光施設として積極的な利活用を目指す施設群

牛岳温泉スキー場及び管理事務所、牛岳温泉健康センター、牛岳オートキャンプ場きらら
牛岳運動広場等利用促進施設（てんころの館）

２．事業者からの提案を受けた上で、利活用の有無を検討する施設群

山田交流促進センター、牛岳ハイツ

第4章 施設再整備に係る事業計画

(1) ソフト事業の検討

再整備による集客を進めるためには、公設民営の発注者である富山市と受注者である民間事業者のほか、地元の活動者・グループ団体、交通事業者や旅行代理店、情報発信のためのメディア、インフルエンサー、観光推進団体との連携が重要となってきます。今後、事業者へのサウンディングの中でソフト事業の提案を促し、地元の意見も参考にしながら、引き続き検討することとしたい。

(ソフト事業の例)

- ・スキー場頂上でのカフェ運営
- ・牛岳エリアを表現するキャッチコピーの策定
- ・スキー場頂上でのナイトイベント（音楽祭など）の開催
- ・テントサウナやかまくら外気浴の実施 ルスツリゾート（北海道）
- ・巨大ブランコ（ジャイアントスイング）の設置 白馬岩岳（長野県）

（２）施設再整備の実現に向けたスケジュール

今年度策定する基本構想をもとに、2024年度（令和６年度）は運営事業者の公募のためのサウンディング及び募集要項等の作成を実施し、2025年度（令和７年度）に運営事業者の公募を行います。そして、2025年度（令和８年度）は必要な施設整備を行い、2027年度（令和９年度）のリニューアルオープンを目指すこととします。

年度		市		運営事業者	
		事業者公募に関すること	施設修繕等に関すること	事業者公募に関すること	施設修繕等に関すること
2024 (R6)	上半期	・事業者へのサウンディング		・サウンディングへの参画	
	下半期	・指定管理募集要項等の作成 ・指定管理導入のための必要条例改正	・修繕施設のとりまとめ		
2025 (R7)		・指定管理者公募の実施 ・事業者の選定 ・指定議案、債務負担行為設定議案 ・基本協定締結	・施設修繕等の設計業務	・公募への応募 ・基本協定締結	
2026 (R8)			・施設整備及び修繕（休館が必要な施設あり）		・施設整備及び修繕（休館が必要な施設あり）

2027 (R9)	リニューアルオープン
--------------	------------

※なお、サウンディングや公募要件等の結果により、スケジュールの変更する可能性があります。

(以上)